

## Wegener 肉芽腫症の経過中に小腸穿孔を来した維持血液透析の1例

ふく なが しょう へい<sup>1)</sup> いし だ ち ひろ<sup>1)</sup>  
 福 永 昇 平<sup>1)</sup> 石 田 千 尋<sup>1)</sup>  
 なか おか あき ひさ<sup>1)</sup> い とう たか ふみ<sup>2)</sup>  
 中 岡 明 久<sup>1)</sup> 伊 藤 孝 史<sup>2)</sup>

キーワード：Wegener 肉芽腫症，消化管穿孔，血液透析

### 要 旨

Wegener 肉芽腫症（以下 WG）の経過中に消化管穿孔を来した報告は少ないが、発症した場合の予後は不良である。症例は67歳男性，糖尿病腎症にて維持血液透析であった。鼻腔粘膜生検より WG と診断され，以後ステロイド治療が行われていた。急性腹症にて緊急手術を受け，小腸穿孔および小腸腸間膜に血腫を認め，小腸部分切除が施行された。病理所見に，腸壁・腸間膜膿瘍，血管炎疑いを認め，WG との関連が示唆された。術後経過は良好であり，第17病日に退院した。WG の経過中に消化管穿孔をおこせば，免疫抑制療法が行われていることが多く，感染症が重症化しやすいと考えられる。WG 患者で腹部症状が出現した際には消化管穿孔を疑う事が必要と考えられる。

### 緒 言 症 例

Wegener 肉芽腫症（以下 WG）は壊死性血管炎を特徴とする難治性血管炎で，鼻・眼・上気道・肺に壊死性肉芽腫，腎では巣状分節性壊死性糸球体腎炎を認める。WG の経過中に消化管穿孔を来した報告は少なく，Pub Med 検索で14例の報告のみであった。今回血管炎との関連が疑われる小腸穿孔を来した症例を経験したので文献的考察を含め報告する。

症例：67歳男性

主訴：腹痛

既往歴：46歳狭心症，61歳胸部大動脈下狭窄（胸—腹部大動脈人工血管バイパス術施行），64歳左外転神経麻痺，65歳上強膜炎，左動眼神経麻痺  
 現病歴：1988年から高血圧症，1992年から糖尿病に対して加療された。2006年から糖尿病性腎症のため維持血液透析中であった。2011年10月に左耳痛を自覚し，鼻腔粘膜生検にて広範囲の壊死巣と上皮下に不規則な肉芽組織および粘液腺の増生を認めた。また以前より咳嗽・血痰を時折に認める

Shohei FUKUNAGA et al.

1) 山陰労災病院腎臓内科

2) 島根大学医学部附属病院腎臓内科

連絡先：〒683-8605 鳥取県米子市皆生新田1丁目8番1号